



2018・11・21

第 324 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 3000 万署名達成が発議阻止の最大の保障

### 九条の会紹介の新リーフ活用を

安倍 9 条改憲とのたたかいが重大な局面を迎え、九条の会の一層の奮闘が求められている情勢に対応し、九条の会は、会を紹介する新たなリーフレットを作成しました。

リーフレットには、九条の会の呼びかけ文と 9 人の呼びかけ人の紹介、新たに世話人になられた 12 人の「ひとこと」、九条の会についての解説を収録しています。

B4 判 4 つ折 1 部 30 円/100 部～25 円/  
1000 部～20 円 注文は事務局へ

### 待ったなし、今っきゃないと

【群馬県高崎市／特定秘密保護法の廃止を求める高崎市民の会】 総計=参加者 3146、署名 6560 土曜行動は、2013 年 12 月 20 日に開始、先月 27 日、250 回の節目の行動を行いました。

第 2 次安倍内閣が誕生し、短命だと思われていました。特定秘密保護法が国民の抗議する中、強行可決。怒りと危機感が高まり、連日駅前宣伝に取り組んできていた有志によってスタート。

5 周年到達は 12 月。この 5 年間で安倍政権は戦争できる国から「する国」へ、秘密保護法、集団的自衛権行使容認、戦争法、共謀罪と年に一件の違憲立法を強行してきました。9 条改憲はその仕上げです。

国民にとって 9 条は平和の最大の砦、守り、生かすは戦後日本の良心の結節点です。

憲法審査会を開催させない、自民党案を発議させない戦いは、待ったなしになりました。悪天候でもめげずつづけた 5 年の力、未来の子ども達へ、平和を渡す力に、全力をあげたい。それは今っきゃないと。

(特定秘密保護法廃止を求める高崎市民の会「あきらめない」11 月 1 日、第 59 号)

### 住民は署名を待っていた

【福島県只見町／憲法 9 条を守る只見連絡会】 只見連絡会は 16 日現在、3000 万人署名の到達数が、町人口 4245 人の 50.9% にあたる 2159 人に達し、当初の目標 1300 人もはるかに上まわりました。

只見連絡会の結成は今年 5 月 12 日、それからわずか半年での成果です。連絡会の飯塚勇代表世話人 (68) は、「よくこれだけ集

まった。只見町にも安倍9条改憲を許さないという強い意思がある」と語っています。

只見連絡会の結成は昨秋に飯塚さんが出席したある会合で、参加者の1人が「安倍首相は改憲に前のめりでおかしい。このままではとんでもないことになる」と発言したのがきっかけ。年があけて2月、「只見町にも9条の会をつくり、9条改憲を許さないとの一点で署名を広げよう」と結成準備会が動きだしました。

世話人らが奔走し、57人が呼びかけ人を応諾。5月12日の「守ろう9条 只見集会」は予想を超える参加者で「只見でこうした取り組みができてうれしい」とその場で連絡会が正式発足しました。

7、8月を署名強化月間として、合併前の3つの旧村から選んだ6人の世話人、役場や農協、郵便局のOB、土建業者ら呼びかけ人がフル稼働しました。

「いつ取りに来るかと心待ちにしていた」と声をかけてきた男性や、玄関のポストの上に署名が置かれた家庭が何軒もあり、「安倍首相に反対だから」とペンを執った女性が数多くいました。

「空き時間はほとんど署名回り」と世話人の菅家達朗さん(69)、「2人の孫たちを戦場に送りたくない。改憲されると米軍の起こす戦争に孫が連れていかれる。頑張ろうと決めた」。喫茶店主の斎藤成徳さん(69)は「頑張れという気持ちで使ってもらっている」と打ち合わせ場所を提供しました。

(野崎勇雄記者「赤旗」11月18日を要約)

**「9条って何？」の質問も出て**  
**【東京都足立区／北千住九条の会】 11**

日、「憲法9条を私たちの手で守り生かそう！ピースアクションin北千住」を開催し、のべ100名が参加しました。

公園でプレ集会を行い北千住駅まで、サウンドパレード。トランペット演奏や歌を歌い「安倍9条改憲反対！」「憲法変えずに政治を変えよう！」と、コールで通行人に改憲反対をアピールしました。

北千住駅前デッキでは、東京関東キリスト者平和の会事務局長・北千住教会の平沢牧師、立憲民主党東京13区総支部長、足立デモクラシークルーの若者、立憲・民主、共産の足立区議が次々と安倍9条改憲を許してはならないと訴えました。また、足立民舞の会の皆さんが沖縄エイサー・他を踊り、通行人が立ち止まり楽しんでいました。

その人々に署名のお願いをすると「9条って何？」と訊く人もいて説明すると「戦争はいやだ」と署名してくれました。また、中学生のグループに「安倍首相が憲法変えようとしていること知っている？」と訊くと、「知ってるよ。僕たちの中学は『カイセイ』だけど憲法変えたらダメでしょ」とダジャレも飛び出し笑顔で次つぎと署名し「がんばって」と激励してくれました。

最後に全員で「戦争を知らないこどもたち」「羽ばたけ憲法9条」を合唱。リレートークや歌、舞踊や音楽で、そして憲法群読で安倍9条改憲反対を訴えることができ今後も継続していきたいと思います。署名は、27筆集まりました。

## 国民投票の前に発議阻止を

**【長野県上田市／ピース市民アクションうえだ】** 長野県上田市で4日、許すな！

憲法改憲市民連絡会事務局次長の菱山南穂子氏の講演会「憲法と私」を行い、約 70 人が参加しました。主催は「ピースアクションうえだ」。上田・小県地域の 9 条の会連絡会などが協力。

菱山さんは、改憲手続き法（国民投票法）の危険性について説明し、最低投票率が低いことや、メディアを使った「有料広告」が基本的に無制限なため権力側が有利に展開できることなどを指摘。

「国民投票で決着をつければいい」というのは危ないとし、「3000 万人署名を集め切れれば、発議できない状況をつくり出すことができる」と強調。「最後は人のつながりと人を変えていく活動が大事」「安倍政権を退陣させるには野党共闘と市民運動の両輪で頑張ることだ」「運動は確実に前進している。自信を持って頑張ろう」と訴えました。

参加した女性は「友達と勉強会をしているが、それだけでなく外へ出て話していくことが大事だと思った」と語りました。

## “日本海戦争” 起させない

【九条科学者の会】 九条科学者の会と日本科学者会議は 10 日、東京・中央大学後楽園キャンパスで、「アジアのなかの憲法 9 条」と題して安倍政権の改憲問題を考える講演会を開きました。科学者や市民ら 110 人が参加、和田春樹・東京大学名誉教授と、九条科学者の会事務局長の永山茂樹・東海大学教授が講演しました。

和田氏は米朝戦争を回避して米朝首脳会談が実現した経緯を振り返ったうえで、安倍首相の北朝鮮に対する制裁と軍事的威嚇の強化政策を批判しました。米朝戦争が起

きれば、それは“日本海戦争“になると指摘し、「日韓朝の 3 国が憲法 9 条を共有し、米中ロを結びつけていく」という新しい東北アジアの未来像を展望しました。

永山氏は、安倍政権は極右勢力に支えられているために、改憲の手法と内容がますます極右化していると述べ、「『安倍一強改憲』は社会的な広がりを持ちづらく、維持が困難になっている」と強調。改憲発議をさせないために、来年 4 月の統一地方選挙でも野党と市民が一体となって抵抗し、参院選挙で改憲与党を 3 分の 2 以下に追い込むことが重要だと訴えました。

## お互いに意見表明できる社会に

【川崎市麻生区／万葉九条の会】 川崎市麻生区で活動している万葉九条の会は 10 月 31 日、同市内で「講演と音楽・文化の会」を開き、約 500 人が参加し、小澤昔ばなし研究所の小澤俊夫所長の「昔ばなしからのメッセージ」、京都産業大学名誉教授で歌人でもある永田和宏さんの「劣化することは」の各講演などが行われました。

小澤さんは、昔ばなしは、ハッピーエンドの前に試練を乗り越える内容になっていると紹介し、子どもが気に入ったところを繰り返し読んであげる大切さを語りました。

永田さんは短歌の例をあげながら、「『私はこう思うがあなたはどう思うか』と表明し合える社会にしなければ」と話しました。

## 実行委の干渉なくまつり参加

【東京都国分寺市／国分寺九条の会】 11 月 4 日（日）、第 35 回国分寺まつりが武蔵国分寺公園で開催され、国分寺 9 条の会

は今年も元気よく参加し、Bye-Bye 原発国分寺の会も無事参加しました。また、非核の会も例年通り豊富な写真を展示して核兵器廃絶を訴えました。

心配された実行委員会からの干渉は全くありませんでした。

ときどき雨が降る天候で各店舗では品物の売れ行きに気を揉んでいましたが、9条の会では絵本を見ていく方も多くフェアトレードの有機コーヒーは完売し、絵本やカレンダーなども18,000円近い売り上げとなりました。

1年生の安里くんの詩を見て、「これが1年生なの？ 安倍首相によませてやりたいなあ」と言った人、「平和っていいね、戦争は嫌だ 国分寺 9条の会」の横断幕を見て、「これ、いいね」といいながら通り過ぎる恋人。小学高学年の男の子の2人組は「戦争はダメだよ、ねえ」と、声をかけてきました。写真がないのが残念ですが、テントの外側に張り出した安里くんの詩を、私たちのテントの近くで中央舞台での出番を待っている子どもたちもたくさん見てくれました。安里君の詩は「へいわってすてきだね」という絵本になって出版され、たくさんの方の共感をよんでいます。(国分寺九条の会「輝け憲法九条」No168)

## 多面的企画で9条を深める

【和歌山県／守ろう9条紀の川市民の会】 11日、「第15回憲法フェスタ」が和歌山市河北コミュニティセンターで開催され、約100人が参加しました

午前10時から「展示の部屋」では、会員の人形・押し絵・絵画・着物リフォーム・

絵手紙・陶芸など、数多くの趣味の作品が賑やかに展示され、コーヒーや抹茶を飲みながら会員同士の会話が弾みました。

同じく数年前からの「リサイクルひろば」も開かれました。気に入った物があれば「タダで」持って帰ってもらうというもので、好評です。

多目的ホールでは、これも恒例になった「ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間」の写真展示が原水協・白井春樹さんの解説付きで行われ、例年小さな部屋で行っていたDVDの上映が今年が多目的ホールで行われ、沖縄映像でドキュメンタリー映画『いのちの海辺野古大浦湾』（謝名元慶福監督）を大きな画面で見ることができました。

午後2時から多目的ホールでのメインプログラムです。

最初に原光範代表の挨拶があり、長年「展示の部屋」を切り盛りされていて、今年9月に亡くなった絹本和代さんにこの憲法フェスタを捧げたいとの話がありました。そして、戦前のビルマでのインパール作戦を取り上げ、このような悲惨なことにならないように、私たちは頑張って改憲を阻止していかなければならないと話されました。

「サウンド・オブ・サイレンス」「未来へ」「この島～悪法9条のうた」「レット・イット・ビー」などが演奏され、最後は参加者が立ち上がり、カチャーシー風(?)に踊りました。

最後は、名古屋学院大学教授・飯島滋明氏の講演「自民党改憲案にどう向き合うか～私たちの具体的な対抗策は～」が行われました。

(「九条の会・わかやま」362)